

研究紀要巻頭言

茨城県教育研修センター 所長 猪瀬 宝裕

令和 4 年度、茨城県教育研修センター研究紀要がまとまり、発刊の運びとなりました。忙しい業務をこなしながら、貴重な論考をお寄せくださいました所員の皆様、紀要のとりまとめを担当された関係の皆様に感謝申し上げます。

今年度は、従来からの論文の他に記録的な論考を含めております。私たちは、コロナ禍であってもその都度その都度生じる様々な困難に対処しながら、「教職員の学びを止めない」センターであり続けました。現在、コロナ対応に関して「共生」の局面に入ろうとしつつありますが、オンライン研修に代表されるこれまでのコロナ対応に伴う様々な工夫、取組、挑戦は、「共生」時代の研修にも活かせるため記録に残すことに意義があると考えました。さらに、研修に対する多くの工夫や改善はコロナ対応だけのためでなく、研修が「教師の主体的な学び」となるよう、また、研修を受講された先生方が学校現場でご自身の創意工夫を加えながら授業改善、子どもたちの学びの質を向上させることができるよう、研修の内容や質の保証は当然ながら、運営方法等も改善して参りました。また、今年度、教員免許更新制が発展的解消となり、センター等での研修への期待が今後ますます高まることが予想されます。本研究紀要掲載の論文にはこうした研修の工夫改善等が具体的に述べられております。論文における主張や見解は、執筆者に帰属するものであり、センターの統一的意見を示すものではありませんが、執筆者にとりまして今後さらに研究等を進める上で皆様からのご意見等頂戴できましたら幸いと考えます。

さらに、第Ⅱ部（記録）の所収の論考は、研修の構築、運営、外部との協力・連携、実施後の分析、反省や今後の工夫改善など多岐にわたりますが、担当者の思いが具体的な研修の姿となっていく過程やさらによりよい研修にすべく工夫や改善に取り組んでいる様子が見て取れます。研修を企画・運営されている方にとりましては、貴重な手がかりとなると考えます。本センターにおいては、今後担当者が変わっても、後任者等がこれらの論考から研修のねらいや仕掛け、意図などを読み取り、さらによりよい研修にしてくれることが期待されます。

本研究紀要をご覧いただいた皆様におかれましては、どうぞ忌憚ないご意見等をお寄せいただきますようお願いいたします。